

2022年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第70回総会（2022年6月3日～5日）
会場：長良川国際会議場、都ホテル岐阜長良川
会長：三鴨廣繁（愛知医科大学大学院医学研究科臨床感染症学）
2. 第69回東日本支部総会（2022年10月27日～29日）
会場：京王プラザホテル札幌
会長：横田伸一（札幌医科大学医学部微生物学講座）
3. 第70回西日本支部総会（2022年11月3日～5日）
会場：出島メッセ長崎
会長：宮下修行（関西医科大学内科学第一講座呼吸器感染症・アレルギー科）
4. 本年関連国際学会として
32nd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC)
2022年11月26日～30日（オーストラリア）

B) 会務

1. 年度末正会員数 8,439名
年度末賛助会員数 22団体、団体会員数 92団体
2. 2022年度評議員会は2022年6月3日に、同定期総会は6月4日に長良川国際会議場で開催された。
3. 新評議員（2022年4月～2023年4月）
東日本支部7名（現在 207名）
青木弘太郎（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
泉澤 友宏（東京慈恵会医科大学附属柏病院薬剤部）
宇野 俊介（慶應義塾大学医学部感染症学教室）
大神田 敬（聖マリアンナ医科大学微生物学教室）
佐藤 豊孝（北海道大学大学院獣医学研究院・獣医学部衛生学分野獣医衛生学教室）
戸所 大輔（群馬大学医学部附属病院眼科）
山口 哲央（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）

西日本支部13名（現在 198名）
浅井 信博（愛知医科大学病院感染症科）
飯沼 由嗣（金沢医科大学臨床感染症学講座）
今村 政信（長崎大学病院薬剤部）
岩永 直樹（長崎大学病院第二内科（呼吸器内科））
小川 拓（大阪医科薬科大学病院感染対策室）
尾田 一貴（熊本大学病院薬剤部）

岸本 裕充（兵庫医科大学歯科口腔外科学講座）
忽那 賢志（大阪大学大学院医学系研究科感染制御医学講座）
長尾 美紀（京都大学医学部附属病院検査部・感染制御部）
中川 博雄（長崎大学病院薬剤部）
的野多加志（飯塚病院感染症科）
宮崎 元康（福岡大学筑紫病院薬剤部）
山田 智之（大阪医科薬科大学病院薬剤部）

4. 理事会 6 回開催

2022年4月、6月（2回）、9月、11月、2023年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 小林 治）

- ・編集委員会 6回開催
- ・編集状況

2022年 第70巻3号～6号

一般誌 4冊（掲載論文数12編）

総説0編（昨年同時期1編）、原著8編（昨年同時期9編）、症例報告0編

（昨年同時期2編）、短報4編（昨年同時期6編）、市販後調査0編（昨年同時期0編）

2023年 第71巻1号～2号

一般誌 2冊（掲載論文数4編）

原著3編（昨年同時期4編）、症例報告0編（昨年同時期1編）、ガイドライン1編（昨年同時期1編）、市販後調査0編（昨年同時期0編）

その他編集中 1冊

- ・転載許諾
3件（うち承認3件）
- ・編集委員が一人丸となって、研修医、薬剤師、看護師、検査技師等による短報、原著の投稿を増やす努力を行った。

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 高橋 聡）

- ・編集状況

2022年

Vol. 28 No. 4～12（掲載論文数 222編）

2023年

Vol. 29 No. 1～3（掲載論文数 68編）

- ・Reviewer of the Yearを選考し、伊東直哉会員（愛知県がんセンター病院感染症内科）と岩永直樹評議員（長崎大学病院第2内科（呼吸器内科））が受賞した。
- ・JIC Award受賞

Shigetoshi Sakabe, Hiroyuki Tanaka, Yuki Nakanishi, Hirokazu Toyoshima

「The clinical course of 239 cases of Japanese spotted fever in Ise Red Cross Hospital, 2006–2019」 (Vo.28 No. 2 p.211-16)

・2023年1月から日本環境感染学会が発行に加わり、三学会（日本化学療法学会・日本感染症学会・日本環境感染学会）での出版となった。

3) 用語委員会（委員長 清田 浩）

当学会ホームページに掲載済みの用語とJIC誌および日本化学療法学会雑誌、感染症学雑誌から抽出したキーワードを照らし合わせ、日本医学会用語集に掲載されているかどうか、確認作業を行った。

2. 学術委員会（委員長 掛屋 弘）

・学術奨励賞受賞者

第70回総会

基礎部門

平山 達朗（長崎大学大学院医歯薬総合研究科薬物治療学／長崎大学病院
呼吸器内科（第二内科））

「マウスモデルを用いたカンディン系抗真菌薬曝露によって生じる *Candida auris* の薬剤耐性化の検討」

臨床部門

八木 祐助（高知大学医学部附属病院薬剤部）

「誤嚥性肺炎患者における抗菌薬治療プロトコールのアウトカム評価」

日本化学療法学会雑誌 第70巻2号 p. 210-216, 2022

泉澤 友宏（東京慈恵会医科大学附属柏病院薬剤部）

「*Clostridioides difficile* 感染症における metronidazole の有効性の検証」

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.28 (11) p. 1546-1551, 2022

森岡 慎一郎（国立国際医療研究センター国際感染症センター）

「Post COVID-19 condition of the Omicron variant of SARS-CoV-2」

3. 学会賞選考委員会（委員長 矢野寿一）

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の候補者について検討し選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：迎 寛（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器内科学）

研究テーマ：呼吸器感染症における口腔連鎖球菌と嫌気性菌、およびウイルス感染の機序と治療法に関する研究

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：川筋 仁史（富山大学学術研究部医学系 感染症学講座）

研究テーマ：唾液中薬物濃度モニタリング（STDM）の確立による抗微生物薬個別化投与の新展開

4. 国際渉外委員会（委員長 大毛宏喜）

1) 4月13日に国際化学療法学会と合同で多剤耐性グラム陰性桿菌に関するWebinar

を開催した。

- 2) 19th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (APCCMI 2023)のシンポジウムの企画を検討した。
 - 3) 2022年11月26日～30日にパース（オーストラリア）で32nd International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC) が開催され、当学会との共催シンポジウム「Management of C. difficile Infection」を開催した。
5. **三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 平松和史）**
フルオロキノロン系薬のブレイクポイント見直しについて検討を始めた
 6. **薬剤感受性検査検討委員会（委員長 荒岡秀樹）**
ラスクフロキサシンのディスク法と微量液体希釈法の相関を取り、抗菌薬含有ディスクの検証を行った。
 7. **プロバイオティクス製剤適正使用検討委員会（委員長 森永芳智）**
プロバイオティクス製剤の使用状況を把握する為、アンケート調査を実施することになり、内容を検討した。
 8. **抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）**
 - ・ 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催
年次テーマ：適正使用の戦術
第 62 回 2022 年 5 月 14 日（土）Web
第 63 回 2022 年 6 月 3 日（金）岐阜長良川国際会議場
第 64 回 2022 年 10 月 26 日（水）京王プラザホテル札幌
第 65 回 2022 年 11 月 3 日（木）出島メッセ長崎
 - ・ 第 62 回セミナーの映像を収録し、e-learning を実施した。
 - ・ 委員会を数回、Web で開催した。
 - ・ 2022 年 11 月 26 日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施した。
 - ・ 2022 年度認定医・認定歯科医師の新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。
 - ・ 2023 年 1 月 1 日付けで認定証を発行した。
 9. **抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 森田邦彦）**
 - ・ 第 25 回抗菌化学療法認定薬剤師講習会は e-learning で実施した。
 - ・ 認定薬剤師試験を 2023 年 1 月 29 日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで実施した。
 - ・ 2023 年 3 月 1 日付で認定薬剤師を認定した。
 10. **外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会（委員長 藤村 茂）**
2022 年 4 月 1 日より、外来抗感染症薬認定薬剤師制度を施行した。
 11. **三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 松本哲哉）**
 - 1) 第 11 回（2019 年）
呼吸器感染症（9 回目：42 薬剤・目標 1000 株・解析 983 株）

成績を日本感染症学会（2022年4月・川越）および日本化学療法学会（2022年6月・岐阜）で報告し、JICに論文を投稿した。

2) 第12回（2020年）

単純性尿路感染症（3回目：19薬剤・目標400例・解析569株）

全国42施設にて収集した608株を19薬剤で感受性測定し、報告書にまとめた。また、成績を日本臨床微生物学会（2023年2月・横浜）で報告した。

複雑性尿路感染症（4回目：39薬剤・目標800例・解析608株）

全国32施設より収集した608株を39薬剤で感受性測定し、報告書にまとめた。また、成績を日本臨床微生物学会（2023年2月・横浜）で報告した。

耳鼻科領域感染症（3回目）

全国40施設にて28薬剤、1000株を目標に期間延長し、継続して実施している。

3) 第13回（2021年）

尿道炎（淋菌）（4回目：目標症例数1,200症例、10薬剤、92施設）

札幌医科大学が経年的に実施のサーベイランスに統合する形態にて実施し、成績を日本臨床微生物学会（2023年2月・横浜）で報告した。

小児科領域感染症（2回目：32薬剤・目標1,000株）

全国24施設にて検体を収集中である。

4) 第14回（2022年）

呼吸器感染症（10回目：目標1,100株、43薬剤）

全国28施設にて菌株を収集している。

手術部位感染症（SSI）（4回目：目標1,000例、43薬剤）

全国24施設にて菌株を収集している。

5) ホームページの更新

各領域の確定結果をデータベースにアップデートした。

12. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

- 1) 抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン 2022」の冊子版およびポケット版を2023年4月に発行し、ポリコナゾールの更新版をホームページおよび日本化学療法学会雑誌 第70巻6号に掲載した。
- 2) バンコマイシンの大規模 TDM データによる母集団薬物動態モデルの臨床研究を開始した。

13. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 光武耕太郎）

Mindsに基づいて、MRSA感染症の治療ガイドラインの改訂作業を開始した。

14. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 三笠桂一）

JAID/JSC感染症治療ガイド改訂版を作成し、パブコメを行った。

15. CDI診療ガイドライン作成委員会（委員長 國島広之）

「*Clostridioides difficile* 感染症診療ガイドライン 2022」を日本化学療法学会雑誌 第71巻1号に掲載した。

16. 淋菌感染症アドホック委員会（委員長 三嶋廣繁）

男性尿道炎患者より分離された淋菌に対する各種抗菌薬の感受性測定を逐次実施している。

17. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

厚生労働大臣、経済産業大臣および財務大臣宛てに7学会連名で「パンデミック・サイレントパンデミックに対する治療薬・ワクチン・検査法の研究開発を継続できる制度の必要性」の提言を提出した。また、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会から当委員会へ「耳鼻咽喉科頭頸部外科領域における新規抗菌薬の開発に関する要望書」の共同提言の依頼があり、2月6日に委員会を開催して検討を行った。

18. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 川口辰哉）

1) 「抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイドンス」改訂の必要性を再確認し、コロナパンデミック対策等で中断していた改訂作業を再開した。

2) 委員会開催

第1回会議 2023年1月12日（Web会議）

19. 外来抗菌薬適正使用調査委員会（委員長 大曲貴夫）

外来抗菌薬適正使用調査委員会による第3回アンケートの調査結果「診療所医師を対象とした抗菌薬適正使用に関するアンケート調査2022」を実施した。

20. AST育成プログラムワーキンググループ（委員長 松本哲哉）

2022年9月14日（水）に第3回AST講習会「中小病院のAST活動」を、2023年2月22日（水）に第4回AST講習会「感染対策向上加算2施設におけるAST活動」をそれぞれWebで開催した。

21. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 堀野哲也）

2023年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

22. 学術集会あり方委員会（委員長 大毛宏喜）

学術集会の運営が厳しくなっていることから、日本感染症学会と合同で今後の学術集会の運営のあり方について検討し、2023年度の第71回学術集会の抄録集について、冊子体を作成しないことで約1,300万円の経費削減が可能な旨の提案を行った。

23. 研究助成検討アドホック委員会（委員長 松本哲哉）

研究費の獲得が厳しくなっていることから、創立70周年記念研究支援プログラムと題して、公募を行い、研究助成金を支給した。

24. 地域講習会促進アドホック委員会（委員長 松本哲哉）

地域における講習会の活動を促進するため、13エリアの世話人を選定し、講習会開催の為の助成金を支給した。

25. 社会保険委員会（委員長 迎 寛）

医薬品・医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目について検討した。

26. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

2022年12月 認定者 35名

（2）2022年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

2023年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第71回学術集会（2023年4月28日～30日）
会場：パシフィコ横浜ノース
会長：吉田正樹（東京慈恵会医科大学感染制御科）
社員総会：2023年5月27日（土）東京国際フォーラム
2. 第70回東日本支部総会（2023年10月25日～27日）
会場：東京ドームホテル
会長：時松一成（昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門）
3. 第71回西日本支部総会（2023年11月9日～11日）
会場：富山国際会議場、ANAクラウンプラザホテル富山
会長：山本善裕（富山大学附属病院感染症科）
4. 本年関連国際学会として
19th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (APCCMI 2023)
2023年7月6日～8日（韓国・ソウル）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年6回、評議員会 年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
 - ・6冊発行予定（第71巻3～6号、第72巻1～2号）
 - ・編集委員会を6回開催する。
 - ・引き続き、学会誌には本学会の活動に相応しい科学的な業績を掲載したい。
 - ・転載許諾については適正な対応に努めたい。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
 - ・電子版12号を発刊する予定。
 - ・編集委員会を数回、開催する。
 - ・JIC賞およびReviewer of the Yearを選考する。
- 3) 用語委員会
抽出した用語を委員会で確認し、抗菌化学療法用語集改訂版を公表する予定である。

2. 学術委員会

学術奨励賞を選考する。

3. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

4. 国際渉外委員会

2023年7月6日～8日にソウルで19th Asia Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (APCCMI 2023) が開催される予定である。

5. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

ラスクフロキサシン、ガレノキサシン、プルリフロキサシン、レボフロキサシンおよびシタフロキサシンの呼吸器感染症や尿路感染症に対するブレイクポイントについて引き続き検討し、化療ブレイクポイントとして公表する予定である。またβラクタマーゼ阻害薬合剤のブレイクポイントについても検討を開始する予定である。

6. 薬剤感受性検査検討委員会

東邦大学での抗菌薬含有ディスクの検討と並行して、委員の施設に2種類のラスクフロキサシンのディスクとフローズンプレートを配布して測定を実施する予定である。

7. プロバイオティクス製剤適正使用検討委員会

アンケート調査内容の解析を元に、ガイド作成に向けた方向性の検討を行い、また情報提供体制など、把握のため、関係企業からヒアリングを行う予定である。

8. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

1) 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

年次テーマ：医療関連感染症 advanced basic

－ 目前の患者診療と耐性化防止のバランスー

第66回 2023年4月28日（金）パシフィコ横浜ノース

第67回 2023年5月27日（土）東京国際フォーラム

第68回 2023年10月25日（水）東京ドームホテル

第69回 2023年11月3日（木）富山国際会議場

※第67回は収録し、後日、e-learningを実施する予定である。

2) 抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

・10月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。

・11月25日（土）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで指導医試験を実施し、認定申請審査の委員会を開催する予定である。

・2024年1月1日付けで認定

上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催予定。

9. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 木村利美）

1) 第26回講習会は日本TDM学会前日の2023年6月23日（金）に京都テルサにて

開催予定であり、第27回講習会は日本医療薬学会年会前日の2023年11月2日（木）に仙台国際センターにて開催する予定であるが、今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大によっては開催形式を変更する予定である。

- 2) 2024年1月28日（日）に認定薬剤師試験を実施し、認定作業を行う予定である。
- 3) 2024年3月1日付けで認定証を発行する予定である。

10. 外来抗感染症薬認定薬剤師認定委員会

- 1) 委員全員で外来抗感染症薬認定薬剤師試験の問題作成を行う予定である。
- 2) 外来抗感染症薬認定薬剤師試験を実施し、認定作業を行う予定である。
- 3) 2024年1月1日付けで認定証を発行する予定である。

11. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

- 1) 第8回（2016年）
尿道炎（淋菌）（3回目）
論文を執筆し JIC に投稿する予定である。
- 2) 第10回（2018年）
歯科口腔外科領域（2回目）
論文を執筆し JIC に投稿する予定である。
- 3) 第12回（2020年）
単純性尿路感染症（3回目）
成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2023年4月・横浜）で報告し、JIC に論文を投稿する予定である。
複雑性尿路感染症（4回目）
成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2023年4月・横浜）で報告し、JIC に論文を投稿する予定である。
耳鼻科領域感染症（3回目）
全国 55 施設にて 28 薬剤、1000 株計画にて 2023 年 4 月まで期間を延長して実施する予定である。
- 4) 第13回（2021年）
尿道炎（淋菌）
成績を日本感染症学会・日本化学療法学会合同学会（2023年4月・横浜）で報告し、JIC に論文を投稿する予定である。
小児科領域感染症
全国 24 施設にて目標 1000 株、32 薬剤にて菌株を収集する予定である。
- 5) 第14回（2022年）
呼吸器感染症（10回目）
全国 28 施設にて菌株を収集し、43 薬剤で感受性測定を行う予定である。
手術部位感染症（SSI）
全国 24 施設にて菌株を収集し、43 薬剤で感受性測定を行う予定である。
- 6) 第15回（2023年）
歯科口腔外科領域（3回目）
菌株収集を開始する予定である。

Clostridioides(Clostridium) difficile 感染症 (1回目)

検体収集を開始する予定である。

- 7) 国立感染症研究所と協力し、今まで収集した臨床分離株のゲノム解析を行う予定である。
- 8) ホームページの更新
各領域の確定結果をデータベースにアップデートする予定である。
12. レジオネラ治療薬評価検討委員会 (委員長 宮下修行)
 - 1) 第 71 回学術集会において「COVID-19 肺炎と肺炎診療ガイドライン：レジオネラ・スコアモデルの評価1」を発表した。
 - 2) 新規抗菌薬のレジオネラ症治療におけるブレイクポイントの評価を行う予定である。
13. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会
JAID/JSC 感染症治療ガイド改訂版を発行し、ホームページで公開し、別途、冊子版も発行する予定である。
14. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会 (委員長 木村利美)
 - 1) 「抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン 2022」改訂に向けて作業を行う予定である。
 - 2) バンコマイシンの大規模 TDM データによる母集団薬物動態モデルの研究成果をまとめる予定である。
15. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会
MRSA 感染症の治療ガイドライン改訂版を発行する予定である。
16. CDI診療ガイドライン作成委員会
Clostridioides difficile 感染症診療ガイドライン第 3 版に向けて改訂作業を行う予定である。
17. 術後感染症予防抗菌薬ガイドライン作成委員会 (委員長 三嶋廣繁)
日本外科感染症学会と合同で、ガイドラインの改訂を行うべく事業を進める予定ある。
18. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会 (委員長 大毛宏喜)
耐性菌のファージ療法を見据えた基礎的検討を開始するにあたり、まずは臨床分離株を用いて有効性を示すファージの選別を実施する予定である。
19. 淋菌感染症アドホック委員会
第 71 回学術集会において男性尿道炎患者より分離された淋菌に対する各種抗菌薬の感受性測定の間接報告を行った。
20. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会
Pull型のインセンティブの導入の実現に関して引き続き検討を行う予定である。
21. 抗微生物薬適正使用推進検討委員
「抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス」の改訂作業を実施する

予定である。

22. 外来抗菌薬適正使用調査委員会

- 1) 第2回アンケート調査結果を和文誌およびJICに委員会報告として掲載する予定である。
- 2) 第71回学術集会において第3回アンケート調査の報告を行った。

23. Key Drug選定ワーキンググループ

今後の抗菌薬の供給状況なども踏まえて臨床における評価を適宜見直す予定である。

24. AST育成プログラムワーキンググループ

年2回のAST講習会をWebで開催する予定である。

25. 学術集会開催支援ワーキング

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

26. 学術集会あり方委員会

引き続き、学術集会の運営のあり方について検討する予定である。

27. 社会保険委員会

医薬品および医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目、経過措置移行予定品目に関する検討を行う予定である。

28. 利益相反委員会

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

29. 倫理委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

30. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：2023年10月31日